

7/30 埼玉県との定期協議



2025年度埼玉県予算編成ならびに行政執行に関する要望書を提出

第1回定期協議では、埼玉県から、2023年度生協指導検査実施状況の要点および2024年度の対象生協について報告がありました。生協連からは「2025年度埼玉県予算編成ならびに行政執行に関する要望」を提出しました。また、生協の事業や活動について懇談しました。



2025年度の要望書を提出 (左、吉川会長理事、埼玉県消費生活課田中康博課長)

7/22 第60回埼玉県消費者大会 プレ学習会



「女性の視点で考える防災・減災」について学びました



埼玉会館にて、141人(会場64人・オンライン77人)が参加、埼玉大学准教授 瀬山紀子さんに講演いただきました。女性の参加は被災者の生活の質に直結すること、日頃から、多様な住民が暮らす地域の中で、ジェンダーや多様性に配慮し、暴力やハラスメントのない地域づくりを進めていくことが大切であり、防災は地域のつながりづくりのきっかけをつくる重要なテーマで、自分たちができることを考え、行動に移してほしいと結ばれました。講演後、グループで感想交流と何ができるかを話し合いました。

8/1 埼玉省委託事業 県内消費者団体 全体研修会



パネルディスカッション「地域の見守り活動を消費者と自治体が連携して進めるために」と団体活動交流開催



第1部では団体活動交流を、第2部ではパネルディスカッション「一緒に考えよう 地域の見守り活動を私たち消費者と自治体が連携して進めるために」を開催し、埼玉県の事業である高齢者等見守り促進事業に関わるみなさんにご報告いただき、今後の展開や消費者・消費者団体がすべきことなど参加者がグループ交流の中で話し合いました。

8/21 埼玉省委託事業 高齢者の消費者被害防止フォーラム



県内の自治体の消費部門、福祉部門の担当者を対象にハイブリッドで開催し、103人が参加しました。㈱日本医療総合研究所の川越雅弘さんの講演「多職種協働で高齢者の見守りをすすめるために」、埼玉消費者被害をなくす会 池本誠司理事長から「高齢者の消費者被害をどうやって防ぐか〜埼玉県の消費者被害防止ネットワークの取り組み」の講演後、高齢者の消費者被害を防止するために何ができるかをグループ交流しました。

9/6 NPO法人埼玉消費者被害をなくす会 消費者力アップ学習会Vol.1



「今から考える空き家対策 ~将来、家族に負担をかけないための『相続ココだけの話』~」



埼玉会館会議室およびオンライン (Zoom) にて、嶋根琢磨さん(司法書士)を講師に迎え学習会を開催し、68人が参加しました。「今から考える空き家対策」をテーマに、空き家の現状、遺言書がない場合や認知症を患った際の相続手続きの複雑さと対策についてお話いただきました。参加者からは「認知症対策もかねて、遺言書を作成して本人の意思を汲み、相続人争いを防ぎたいと思います」などの声が寄せられました。

SAITAMA

2024 秋号

No.91 (2024年10月発行)

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

写真ニュース



Top News

9/7

県連ピースフォーラム ピースアクションの参加者が集まり、報告・交流しました



6団体から37人が参加しました

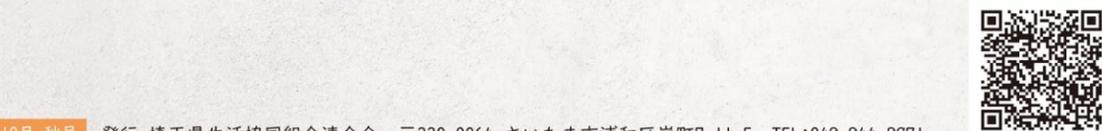


現地で見て、聞いて、感じたことを報告



学習会の講師 濱住治郎さん

さいたま共済会館にて、ピースアクションオキナワ・ヒロシマ・ナガサキ行動の参加者など37人が集まり、平和行動の報告、さらに参加して感じたこと、続けていきたいことなどをグループ交流しました。次に、日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の濱住治郎さんから「被爆者の現状と継承のために考えるべきこと」をテーマに講演いただき、学習しました。参加者からは「グループ交流ではいろいろな意見を聞くことができ参考になった」「これを機会に平和学習などの取り組みを生協の垣根を越えて協力して実施したい」などの声が寄せられました。また、今後、取り組んでみたいことでは「平和をテーマにした朗読劇のワークショップ」「各生協の平和の取り組みの交流会」などの要望がありました。



写真ニュース
←バックナンバーはこちら

CO-OP 埼玉県生活協同組合連合会





生活協同組合パルシステム埼玉

「ピースアクションinヒロシマ」に参加しました



参加者は「戦争や核兵器のない未来を作るためにできることを考えたい」と平和を願いました

8月4日～5日、ピースアクションinヒロシマに組合員と役員計19人が参加しました。「広島平和記念資料館」見学や「被爆の証言」の講話への参加、映画「おかあさんの被爆ピアノ」の視聴などをし、一人ひとりが平和の尊さに思いを馳せ、被爆者の思いを受け止めました。パルシステム埼玉は今後も、ピースアクションへの参加などを通じ、争いや格差のない命が大切にされる社会の実現に向けて取り組んでいきます。



医療生協さいたま生活協同組合

「健康づくり体験会で 体カアップ！」



なかなかうまくいかないわ

足踏みラダー体験会



お腹の底からわっはっはっ！

健康増進やフレイル予防のため、健康づくりを体験・参加する人を増やしたいと、今年度は地域ごとに「健康づくり体験会」を開催しています。

7月29日に秩父地区で行った笑いケア体操と足踏みラダーの体験会には、24人が参加しました。医療生協の企画に初参加の人からは「1週間分くらい笑いました。笑うから楽しくなることを実感しました」「足と頭を同時に使い、心身に酸素が行き渡りました」などの感想がありました。今後は北部地区（熊谷市）、西部地区（所沢市）でも企画しています。



生活協同組合・さいたま高齢協

「老いじたく」をテーマに講演会を開催



8月4日、三郷市文化会館にて、56人の参加で講演会を開催しました。講演Iでは「はじめての老いじたく」をテーマに三郷市社協の篠田明子さんが講演。身の回りの整理、亡くなったあとのこと、これからの人生など元気うちに備えることが必要との話に参加者は共感していました。講演IIでは「人形づくりに惹かれた私の人生・出会い」と題して、元気なシニアライフを送る、地元にお住まいの伊原恵美子さんのお話。伊原さんに元気をもらったと大好評でした。



生活協同組合コープみらい

女子中学生のための「コープデリ商品検査センターお仕事体験ツアー」を実施



微生物検査の体験の様子

包括連携協定を締結するさいたま市の「民間提案制度」のテーマのひとつ「女子中学生の理工系分野への進路選択の促進事業」として、「コープデリ商品検査センターお仕事体験ツアー」を実施し、女子中学生14人に参加いただきました。当日は、施設見学のほか、微生物検査の体験や女性職員との交流会を行いました。参加者からは「理系への興味と、具体的な仕事が見えてすごく良かった」「普段できない培養ができて楽しかった。検査員という仕事があるということを知ることができた」などの感想が寄せられました。



生活クラブ生活協同組合

みんなが幸せになる「社会的連帯経済」



講師の工藤律子さん

8月24日に「今こそ『つながりの経済』を創ろう」と題し、ジャーナリストの工藤律子さんの講演と、地域で活動する組合員や連携している団体の事例報告を含めた学習会を開きました。「社会的連帯経済」とは、資本主義経済の利益を優先する社会ではなく、様々な人が協働し、誰もが自分らしい働き方(生き方)ができる民主的で持続可能な経済のこと。日頃、生活クラブは「組合員の声を集めて社会を変えていこう」という想いからいろいろな活動をすすめています。活動をしっかりとすすめる、その延長に社会的連帯経済があることを学びました。

さいたま住宅生活協同組合

断熱改修で健康で快適な住まいに



断熱施工前

内窓断熱施工後

今年の夏も前例のない暑さが続きました。かつては日照や風通しのため、南側に大きな窓を設置した住宅が多かったのですが、近年は窓を小さくし、断熱性を高めた新築住宅が多くなっています。また既存の住宅でも屋根裏や床下に断熱材を追加したり、窓を2重にする「断熱改修」を行うお宅も増えています。これにより冷暖房の省エネ化を図り、また室内の温度差を減らしてヒートショック等の健康維持にも役立ち、国も断熱改修推進のため補助金の充実を図っています。

断熱改修で健康で快適な住まいに



こくみん共済coop〈全労済〉

交通遺児等への寄附および横断旗の寄贈



埼玉推進本部では埼玉県交通安全対策協議会の交通遺児援護基金に2016年度からマイカー共済の新契約実績に応じて寄附を実施しています。7月に182,500円の寄附を行い、寄附額累計は1,436,100円となりました。また、2020年から始めたマイカー共済の見積もり1件につき1本の横断旗を全国の小学校等へ寄贈する取り組みでは、2023年度上期分として3月に埼玉県内の小学校43校に合計5,660本の横断旗を寄贈しました。今後もマイカー共済の推進を通じ、交通事故のない安全な社会づくりに皆さまとともに取り組んでまいります。

